

令和4年度第2回群馬県糖尿病対策推進協議会 議事概要

○日 時：令和5年3月20日（月） 18:30～20:00

○開催形式：ZOOM（事務局：県庁221会議室）

○出席者：群馬県糖尿病対策推進協議会委員 14名

事務局 医務課、国保援護課、健康長寿社会づくり推進課 計8名

○配付資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・資料1-1 群馬県糖尿病対策推進事業について
- ・資料1-2 群馬県の慢性透析患者等の状況について
- ・資料2 第9次群馬県保健医療計画の策定について（スケジュール等）
- ・資料3 「群馬県糖尿病性腎臓病重症化予防プログラム」の推進について

○会議内容

1. 開会
2. 挨拶 群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課長
3. 議事 進行：山田会長

(1) 協議事項

○事務局（健康長寿社会づくり推進課）から、資料1について説明。

- ・資料1-1 群馬県糖尿病対策推進事業について
- ・資料1-2 群馬県の慢性透析患者等の状況について

<質疑・意見等>

（山田会長）事業に関しましては、多くの方に研修会を受講いただき、糖尿病への興味は大きいようである。群馬県糖尿病予防指導プログラムについては、もっと宣伝すると良いのかもしれない。研修会のアンケートについては概ね良好、研修会の開催方法についてはWeb開催を希望する人が多くなっている傾向である。7頁、糖尿病透析導入患者数、横ばいとおっしゃっていたが、日本では糖尿病の割合は減少傾向にあり、群馬県も5割にはいっていないので、全国と同じくらいの傾向と考えてもいいのかとも思う。8頁、糖尿病腎症による透析導入患者数が高くワースト4である。ご意見はいかがか。

(廣村委員) 2020年のデータでは、新規導入患者が減ってきていたが、2021年はリバウンドなのか増加した。なんとか減らしていきたいところである。最近治療薬としてSGLT2阻害薬が出ているのでそれを広めることと、新型コロナも収まってきたので、重症化予防プログラムによる対策をしっかりと徹底できれば良いと思う。

(山田会長) なぜ群馬県は透析者数が多いか、懇切丁寧に最期まで透析導入をしているという意見もあり、そうであればいいが、医療費を考えると理解が得られないところもある。

(永井委員) 地域で療養型の施設を作り、東京の透析患者がくることがある。東京から透析患者がきた場合、どのようにカウントされているか。

(事務局) 住所地ではなく、医療機関でのカウントかと思う。

(廣村委員) 透析医学会は施設毎に調査しているので、おそらく群馬県の施設であれば、群馬県での導入としてカウントされると思う。

(永井委員) 群馬県の施設で透析患者が多いところ、出身が東京という方がいるが、群馬県の数への影響が多少はあるか。

(廣村委員) 導入が群馬県でされれば、群馬県での新規導入としてカウントされる。

(山田会長) 維持透析させている方が群馬県にきても、それは新規導入者にはならないか。

(廣村委員) それはならない。

(永井委員) 慢性透析患者の推移については、現在の透析者数か。

(廣村委員) 調査年に透析を行っていた方が、慢性透析患者数に反映される。

(山田会長) 群馬県に流れてくることが多いというのはあると思う。今後詳細が分かるようであれば調査いただければと思う。

(2) 報告事項

○事務局（医務課）から、資料2について説明。

- ・資料2 第9次群馬県保健医療計画の策定について（スケジュール等）

<質疑・意見等>

(山田会長) 第9次群馬県保健医療計画の主にスケジュールについて説明いただいた。前回の協議会でご意見いただき、少し修正を行い、現在調査・集計していただいているところかと思う。次回以降に今回の調査で分かったことをもとに議論する形でよろしいか。

(事務局) おっしゃるとおりである。

○事務局(国保援護課)から、資料3について説明。

・資料3 「群馬県糖尿病性腎臓病重症化予防プログラム」の推進について

(山田会長) 各市町村における実施者数、全体で保健指導は66件。富岡や館林の方でよくやっけていただいている。ほとんどの市町村で受診勧奨の体制が整っており、保健指導は数市町村は体制ができていないということである。1604人の対象者のうち、1224人に受診勧奨、実際に632人の受診があった。最も良くないのが、治療中断で検診も受けていない方である。全体を通していかがか。

(川島委員) 重症化予防の保健指導が非常に少ない。各市町村と地区医師会が協議する場をつくり、説明をしたが進んでいない。コロナ禍ということもあって難しい状況ではあるが、仕切り直して来年度やっけていければと思う。受診勧奨も積極的に頑張っけていただき、実績を増やしていただければありがたい。

(山田会長) いかん啓発活動が重要か。医師会から案内等は出ているか。

(川島委員) 出していない。県から県医師会宛に毎年1回くらい定期的に通知をいただけるとありがたい。

(山田会長) 永井委員、富岡地区は取組件数が多いが、何かされているか。

(永井委員) 勉強会をしているので、問題意識をもっていると思う。

(山田会長) 治療中断者について、目が見えなくなる寸前の方が受診することがある。今日も足壊疽、腎臓がステージ4、目もほとんど見えないという方が受診した。治療中断者3351人を重点的にしていただけるとありがたい。この情報はどこまでオープンにするか。

(事務局) 各市町村にはフィードバックしているが、これまで広くは公表していない。公表の方法については改めて検討したい。

(川島委員) 4月に県医師会で公衆衛生委員会があるので、県から状況報告をしていただければと思う。

(佐藤委員) 21頁、a, b, c, d, eのそれぞれに2列あるのは何か。

(事務局) それぞれ受診勧奨と保健指導に分かれている。

(佐藤委員) a, c, d積極的に働きかけることが必要かと思う。20頁の市町村の実施体制の有無、18～19頁の実績がリンクしてくると思うが、伊勢崎、吾妻、渋川については実施体制に伴って実績なしという状況がある。引き続き、各地域単位で推進をしていきたいとあったが、全県下に普及しながら実施体制が十分でないエリアについて、県として支援をしていただきたいと感じた。伊勢崎、吾妻、渋川においては、県として何ができるか検討いただきたい。

(山田会長) 非常に重要なご指摘かと思う。ぜひ重点的な指導をお願いしたい。

(上原委員) 受診勧奨、啓蒙が非常に重要と思う。治療中断者をいかに医療機関や指導にもっていけるか啓蒙とともに、医療機関への受診を推進していただければと思う。

(山田会長) 啓発活動が非常に重要になる。

(田尻委員) 具体的な数字が出ていて、大変参考になった。薬剤師、薬局としてどのように関わられるかということがあるが、会員に周知したい。

(荻原委員) 重症化予防プログラムの会議に出席させていただいたりして、群馬県の健康課題の意識付けができた。看護職関係の会議でも話をすると看護職の間でも糖尿病から腎臓病になったり重症化や透析導入者が多いことを初めて聞いたという意見もある。まだまだ医療職についても啓発が少ない。看護職の中でも重症化予防プログラムの紹介も含めて広めていきたい。

(宮崎委員) 重症化予防プログラムの連携した医療機関の名称をみるとクリニック、医院が多い。栄養士がいる施設といない施設で、プログラムの先の話になるが、食事の具体的な話になったときに管理栄養士がいないとその先が進まなくなるので、そこでの連携も必要に

なる。管理栄養士の有無に関わらず、標準化したものを提供できる仕組みができればと思うので、事務局と共有していきたい。

(事務局：石田歯科部長) 本日、県歯科医師会の佐野委員が欠席ということで、歯科の立場から話をさせていただく。先日、群馬県における糖尿病の医歯薬連携を考える会が開催された。医科歯科連携は重要と考えている。医科の方からアクションを起こしていただき、ありがたい。歯科医療機関からすると医科の先生方からおくっていただかないと情報を得ることが難しい。医師から歯科医療機関に紹介するにあたり名簿化の課題がでた。現状ではかかりつけ歯科医でいいと思うが、より正確にということで名簿を用意した方がいいという議論もある。県歯科医師会で糖尿病に関する研修を受けたクリニックの名簿の作成等の検討をしているということで、本日は代わりに報告する。

(山田会長) どのように医療機関が歯科医院や薬局と連携をとっていくか検討が必要になるという次の段階に入ってきている。

4. その他

(山田会長) 群馬県は糖尿病性腎症で透析になる方が多い。いつかは全国平均の下になることを期待している。今後の協議会の発展と糖尿病に限らず、群馬県の健康福祉を増進していただければと思う。会長の後任が不在の期間、副会長の川島先生に代行をお願いしたい。

(川島委員) 務めさせていただく。よろしくお願いします。

(神山課長) 山田先生、長きにわたりまして、群馬県の糖尿病対策、重症化予防対策を推進いただきまして、ありがとうございました。来年度、川島先生よろしく願いいたします。私も今年度で退職になる。皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。

5. 閉会